

ナシ改植に適した大苗育成技術

県内のナシ主産地では改植が重要な課題となっていますが、不十分な苗木管理により初期生育が不良となり、早期成園化が難しく、改植が進んでいないのが現状です。そこで、生育促進による未収益期間短縮と栽培管理の容易化を目的とした、簡易式の大苗育成技術を紹介します。

1 不織布ポットによる苗木育成

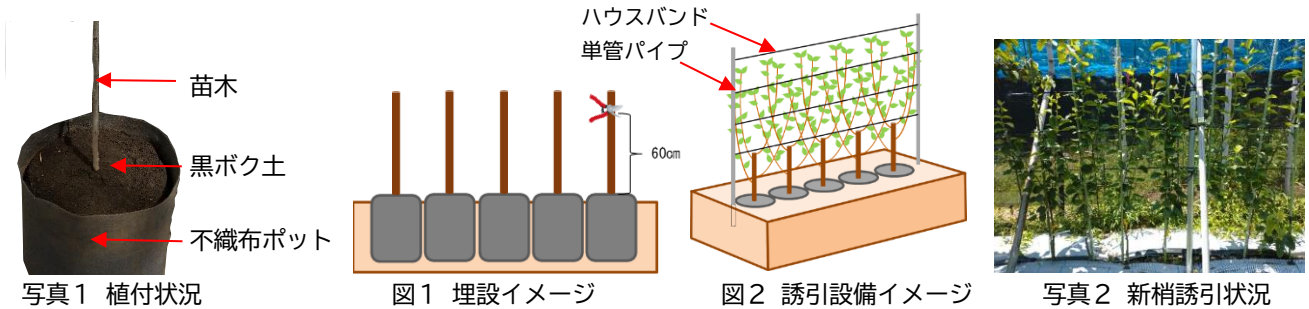
設備が簡易で、設置及び撤去も容易であるため、小規模での大苗育成に適しています。

(1) 植付、不織布ポット埋設

不織布ポット(30ℓ)に黒ボク土を詰め、苗木を植付けます。その後不織布ポットの上部が5cm程度出るように半地下で列植して埋設します。苗木は地上60cmの部分で切り返します。

(2) 新梢管理、灌水、施肥

先端から4芽の新梢は伸ばし、他は摘芽します。新梢は列植した不織布ポットの両端に3m間隔で単管パイプを打込み、単管パイプにハウスバンドを張り、誘引します。灌水は夏場は1日15分~30分程度噴霧散水とし、施肥は5月~8月に化成肥料を毎月1ポット15g~20g程度施用します。



2 技術の効果およびコスト

(1) 細根量増加による初期生育の促進

不織布ポットによる苗木育成では、根域を制限することで地植えと比べ、養水分を吸収する役割の細根量が増加します。そのため、初期生育が促進され、苗木の先端から4芽伸ばした場合の平均新梢長は地植えと比べて‘幸水’では約1.6倍、‘あきづき’では約1.8倍増加します。

(2) 未収益期間を1年短縮→早期成園化へ！

不織布ポットによる苗木育成は、既存の成木を残したまま、圃場の隅で1年間苗木を育成できるため、未収益期間を1年短縮できます。また、細根量が多い状態で改植できるため、その後の樹冠拡大も早くなり、早期成園化に繋がります。

(3) コスト

不織布ポットによる大苗育成コストは約1,900円/本かかります。

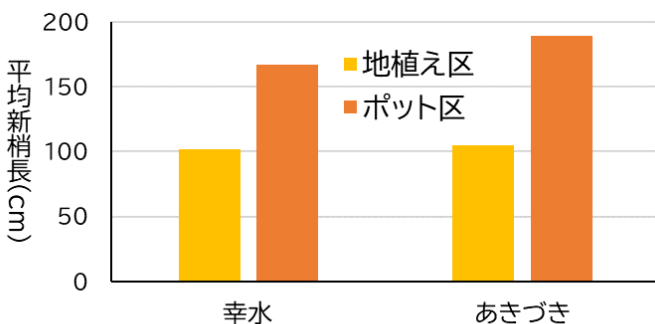


表1 大苗育成コスト(不織布ポット)/10本

資材名	数量	単位	単価(円)	金額(円)
不織布ポット	10	個	770	7,700
黒ボク土	21	袋	295	6,195
単管パイプ	2	本	1,680	3,360
ハウスバンド	12	m	9	108
噴霧散水	3	m	224	672
防草シート	6	m	99	594
合計(税込)				18,629

図3 各品種の平均新梢長